

【 U20アジアジュニア選手権 】

2017年7月15日～7月23日 香港・九龍

試合結果報告 7 月 23 日 (日)

J P N	VS	KOR(韓国)
12	前半	13
9	後半	8
0	第1延長	0
0	第2延長	0
21	合計	21

個人得点

名前	前半	後半	第1延長	第2延長	合計
榎 和奏					0
松浦 志織					0
並木 梨沙	4	3			7
大松澤 彩夏					0
行本 朱里					0
鈴木 姫らら					0
平川 愛					0
吉田 瑞萌					0
中山 佳穂	6	2			8
相澤 菜月		1			1
吉留 有紀		2			2
笠井 千香子	2				2
西村 美桜里					0
渋谷 知里					0
尾辻 素乃子		1			1
藤田 遥香					0
					0
					0
					0
合計			0	0	21

戦評

アジアジュニア選手権最終戦は韓国との対戦。開始早々、NO.35中山のリバウンドで先制。対する韓国も負けじとRBの速攻からのカットインで1点返す。日本は前半3分にNO.28並木が獲得した7mTをNO.35中山が落ち着いて決め2対1とリードする。日本はNO.43藤田をトップに配置したコンパクトな5-1ディフェンスが機能し、韓国オフェンス陣の突破を許さない。ディフェンスからリズムを掴んだ日本はNO.39笠井の速攻、並木のミドルシュートで4対1とリードする。たまたま韓国はタイムアウトを要求。その直後、韓国の1対1を守りにいったNO.39笠井が退場し7mTが与えられたがNO.41GK渋谷がシャットアウトし、韓国に流れを渡さない。その後も5人でよく守った日本はNO.35中山がミドルシュートを叩き込み5対1とさらにリードを広げる。一進一退の攻防が続く中、日本がNO.35中山のカットイン、NO.28並木のミドル、NO.39笠井の速攻で9対4と抜け出す。しかし、ここから韓国が本領発揮。日本のセットオフェンスの停滞を見逃さず、速攻、ポストプレーやCB、RBのカットインを含む6連取で23分に9対10と逆転を許してしまう。その後もリードを広げられる苦しい展開となったがNO.26GK榎の7mTセーブ、NO.35中山のカットインなどで12対13と食らいつき、前半を折り返す。後半はNO.35中山、NO.28並木らの活躍で互いに点を取り合う展開が続くも日本のシュートミスに乗じて37分過ぎから韓国がペースアップし、6連取。残り15分、15対19とリードを広げられる。これ以上離されたくない日本は、なかなか得点が奪えず、追いつくことができない。残り5分を切ったところでディフェンスでなんとか粘り、オフェンスで7人攻撃を仕掛けた日本はNO.28並木のカットイン、NO.42尾辻がリバウンドをねじ込み、NO.38吉留のスクイプレーでついに残り1分で同点に追いつく、韓国の最後のオフェンスを凌いだ日本はタイムアウトを要求、7人攻撃を仕掛けるもゴールならず21対21でタイムアップ。あと1点が遠く、悔しい引き分けとなり、3位で大会を終えた。

報告記入者 :

佐藤奏吉